

働き方 個人に寄り添う

2021/04/26 05:00

金田コーポレーション 畑島美緒社長に聞く



「本業では自然エネルギー分野のものづくりに挑戦したい」と話す畑島社長（玉野市田井の本社で）

プラント用鉄鋼構造物製作の金田コーポレーション（玉野市田井）は、働きやすい環境整備に積極的に取り組む企業として、2019年から20年に向け、県のおかやま子育て応援宣言企業「アドバンス企業」に認定されたり、岡山労働局などをつくる団体から「働き方改革パイオニア企業」として表彰されたりしている。畑島美緒社長（53）に取り組みの内容や背景などを聞いた。（滝沢清明）

——どんな取り組みをしているのか。

「小学生と保育園児を育てている女性社員には、勤務時間の短縮を認めています。午前8時～午後5時が原則ですが、週4日は午前9時～午後5時、週1日は午前9時～午後4時です」

「別の子育て中の女性には、仕事のサイクルに合わせた出勤を認めています。経理担当なので定時出勤である必要がないのです。設計担当の女性には、延長保育料を会社が負担しています。残業せざるを得ない時があって、会社は残業料を支払いますが、それが延長保育料で消えてしまうのはいけないからです」

——取り組みの効果は。

「個々人に寄り添う働き方を認めることで、会社としては、必要な人材を確保できます。2人の男性シニア社員には、家族の介護などの事情があるので、午後3時までなどの時短勤務をしてもらっています。こうした働き方を認めることで、現幹部に生産管理のノウハウを指導してもらったり、若手社員に技術伝承をしてもらったりしています」



カラフルな絵が描かれた天井クレーン（玉野市田井の本社で）

——取り組んだ理由は。

「父が2代目社長で個人経営だったので、社長と社員は親方と弟子という雰囲気でした。私は研修会などに参加して経営の勉強をしました。そこで、社員の役割を定めて社内を組織化したり、評価や賃金制度を作ったりすることや、会社の目標となる経営理念を持つことが重要だと学びました」

「専務時代に経営理念をつくり、最初に『全従業員の物心両面にわたる幸福と会社発展のため
誠実な姿勢で仕事に励みます』と記しました。個人に寄り添う働き方を認めようというのは、こうした流れの中から生まれてきたものです。産休明けの女性の働き方を考えたのがきっかけでした」

「私にとっては『楽しく』が幼い頃からのキーワードです。人生は働くことに大半が費やされます。ならば『楽しく働く』が重要です。こうした考えも背景にあったと思います」

——社長になった経緯を。

「大学卒業後すぐに結婚し、専業主婦になりました。2人の子どもが小学校や幼稚園に通い出すと自分の時間が持てたので、小遣い稼ぎぐらゐの軽い気持ちでこの会社で働き出しました。30歳の時です。でも、展示会での新製品の説明役など次々と重要な仕事を任されるようになり、専務を経て16年に母の後の5代目社長になりました」

——働き方以外の取り組みは。

「人として成長できるようにと月1回、テーマを決めて読書をし、感想文を発表し合う勉強会を開いています。希望があったので女性だけでフラダンス部をつくり、月2回講師を呼んで練習しています。社内を明るくしようと、絵の上手な知人に、天井クレーンやフォークリフト、女性用ヘルメットに絵を描いてもらっています。『硬いのに柔らかい』がうちの会社です」

——今後の方針は。

「17年に創業70年を迎えました。まずは創業100年を目指したい。それには社員の能力を引き出すことが大切です。人材育成に力を入れます」

＜おかやま子育て応援宣言企業「アドバンス企業」＞ 企業や事業所が、従業員の子育てや地域における子育てを応援する具体的な取り組みを宣言し、県が登録する制度。このうち、従業員の仕事と家庭の両立支援に特に積極的な企業を「アドバンス企業」として認定している。

＜会社概要＞

畑島社長の祖父が1947年（昭和22年）に金田板金工業所として創業。89年に株式会社とし、2009年に社名を「金田コーポレーション」に変更した。資本金5000万円、従業員43人（女性6人）。年間売り上げは約15億円。玉野市内に3工場のほか、中国企業との合併で中国・大連市にも工場を持つ。

無断転載・複製を禁じます